



考える

問題解決学習をするときに、タブレットを使うと、考えたり調べたりしたことを上手にまとめることができます。ここでは、タブレットを使って効果的に考えるための方法と、その時に気を付けるべきことについて学びます。

最初にチェックしてみよう

- ☐ 私は、信頼性の高いデータを得られるようなアンケートをつくることができると思う
- ☐ 私は、問題を深く分析することができると思う
- ☐ 私は、ルールの中にある「ズレ」について理解していると思う
- ☐ 私は、「引用」をする際の条件を知っていると思う

アンケートの質問項目をつくろう

問題を解決するために、アンケート調査を行うことがあります。

しかし、アンケートの項目をきちんと考えないと、意図したデータを得ることができません。

次のアンケートの問題点に○を付け、なぜ問題なのか、どのように改善すればよいかを考えてみましょう。

〇〇市の好きなところに関するアンケート
このアンケートは、〇〇学校が授業の一環で実施しています。 全員必ず回答してください。
1. 〇〇市の自然や食べ物は、よいと思いますか？ ①とてもよい ②まあよい ③あまりよくない ④まったくよくない
2. 〇〇市のよいところをすべて選んでください。 A：食べ物 B：観光地 C：自然 D：人の温かさ
3. 〇〇市には新幹線が通っていないので、とても不便です。 新幹線を通すべきだと思いますか？ ①そう思う ②そう思わない



正解

〇〇市の好きなところに関するアンケート	
①	このアンケートは、〇〇学校が授業の一環で実施しています。 全員必ず回答してください。
②	1. 〇〇市の自然や食べ物は、よいと思いますか？ ①とてもよい ②まあよい ③あまりよくない ④まったくよくない
③	2. 〇〇市のよいところをすべて選んでください。 A：食べ物 B：観光地 C：自然 D：人の温かさ
④	3. 〇〇市には新幹線が通っていないので、とても不便です。 新幹線を通すべきだと思いますか？ ①そう思う ②そう思わない

★ スキルのポイント

- ①アンケートは強制的に実施してはいけません。「協力してくれる人は」という形で同意をとりましょう。
- ②「自然や食べ物」と2つのことを入れてしまうと、どちらのことを回答してよいのかわかりにくくなります。
- ③「すべて選んでください」だと、それぞれの順位付けが難しくなります。「A：食べ物 ①とてもよい ②まあよい ③あまりよくない ④まったくよくない」、「B：観光地 ①とてもよい ②まあよい ③あまりよくない ④まったくよくない」という形で個別に聞いた方がよいでしょう。
- ④自分の意見を入れてしまうと、回答者がそれに影響を受けてしまいます。

地域について探究した際、「子育て世代が公園を利用できていない」ことが問題として挙げられました。

この問題を深く分析するために、「子育て世代」を具体的にイメージしてみることにしました。

ライフスタイルと性格から、それぞれ選んで、子育て世代を具体的にイメージし、その家族が公園を利用できない理由を考えてみましょう。

ライフスタイル	
マンション	⇔ 戸建て
子どもが一人	⇔ 子どもが複数
子どもがいる友達が多い	⇔ 子どもがいる友達が少ない
地元で子育て	⇔ 地元から離れて子育て

性格	
社交的	⇔ 人見知り
アウトドア派	⇔ インドア派
趣味が多い	⇔ 趣味が少ない
心配性	⇔ 楽天的



この家族が、公園を利用できないのはなぜだろう？



例

ライフスタイル	
マンション	⇔ 戸建て
子どもが一人	⇔ 子どもが複数
子どもがいる友達が多い	⇔ 子どもがいる友達が少ない
地元で子育て	⇔ 地元から離れて子育て

性格	
社交的	⇔ 人見知り
アウトドア派	⇔ インドア派
趣味が多い	⇔ 趣味が少ない
心配性	⇔ 楽天的

この家族が、公園を利用できないのはなぜだろう？

マンション住まいだから外に出るのに手間が多い。友達も少なく子どもも一人なのでわざわざ外に出るきっかけがない。地元から離れており、人見知りなので知らない人とコミュニケーションを取りたくない。



スキルのポイント

「子育て世代」と聞くと、自分の中のイメージで「子どもは2人ぐらいかな」「きっと友達が多いんだろうな」「アウトドアとかしてそうだな」と考えてしまい、そのイメージで「なぜ公園を利用できないのか」と考えてしまいがちです。

しかし、「子育て世代」と言っても、いろいろな形や性格の家族がいます。

強制的にイメージを広げ、新しいイメージで問題を分析すると、今までとは違った形の問題点が見えてくるかもしれません。



ルールを考える場合、ルールの中の「ズレ」を意識する必要があります。

例えば、人によってイメージがズレやすい言葉には、次のルールの「 」のようなものがあります。

それぞれのズレやすい言葉について、自分の境界線を考えてみましょう。

○○学校のタブレット利用に関するルール

- ① タブレットは「学習の目的」で使うこと。
- ② 「不適切な利用」をしないこと。
- ③ 家庭で使う場合には「夜遅く」まで使わないこと。

①「学習の目的」に当てはまる／当てはまらないもの	当てはまる：
	当てはまらない：
②「不適切な利用」に当てはまる／当てはまらないもの	当てはまる：
	当てはまらない：
③「夜遅く」の境界	



①「学習の目的」に当てはまる／当てはまらないもの	当てはまる：
	当てはまらない：
②「不適切な利用」に当てはまる／当てはまらない	友達と共有してみよう
③「夜遅く」の境界	

☆ スキルのポイント

自分が考えていたことと友達が考えていたことに「ズレ」があるという経験はありませんか？

「学習の目的」「不適切な利用」「夜遅く」などは、人によってイメージがズレやすい言葉です。そのほかにも、「たくさん」「すぐに」「ゆっくり」なども人によってイメージがズレやすい言葉になります。

何かを考える時には、誤解されることを少なくするために、こうした人によってイメージがズレやすい言葉を避けることが重要です。他にもイメージがズレやすい言葉を探してみましょう。

ネットや本の情報には著作権があり、勝手に使うことはできません。

しかし、著作権法第32条では、ある条件を満たせば、自分の著作物に「公表された著作物を引用して利用することができる」と示されています。

次の文を読んで、引用するための条件（約束事）に当てはまる部分を考え、で囲みましょう。

子どもがスマートフォン（スマホ）を持つことについて、私はスマホを持つためにルールをつくることが重要だと思います。

このルールのつくり方について、山本（2022）が、「家庭のルールを子どもと一緒にすることで、スマホの使いすぎなどを改善することができる」と述べています。

確かに、保護者が一方的にルールを決めるのではなく、子どもと一緒に作ることができれば、子どもも守ろうという気になるのではないかと思います。

山本あきら（2022）『スマホを子どもに持たせる前に』
〇〇出版、p19

子どもがスマートフォン（スマホ）を持つことについて、私はスマホを持つためにルールをつくることが重要だと思います。

このルールの作り方について、山本（2022）が、「家庭のルールを子どもと一緒につくることで、スマホの使いすぎなどを改善することができる」と述べています。

確かに、保護者が一方的にルールを決めるのではなく、子どもと一緒に作ることができれば、子どもも守ろうという気になるのではないかと思います。

山本あきら（2022）『スマホを子どもに持たせる前に』
〇〇出版、p19



スキルのポイント

引用をするためには、自分の書いた部分と引用部分をはっきりと区別する必要があります。例えば、自分の文章に、他人の文章を引用する場合には、他人の文章を「」（カギかっこ）でくくるなどの区別をすることで、この部分が引用であることを示す必要があります。

また、引用では、必要な部分を限定し、あなたの意見の量よりも多くならないようにする必要があります。例えば、あなたの意見を述べる際に、90%が他人の文章の引用であったらどうでしょうか。これはもはや他人の意見です。

さらに、出典の明記です。その引用がどここの情報から出典されたものなのかを示す必要があります。





考える

まとめ

よき使い手になるために

「考える」ためには、情報を収集し、整理しておく必要があります。意図したデータの収集方法や正しい引用の仕方を学んでおきましょう。

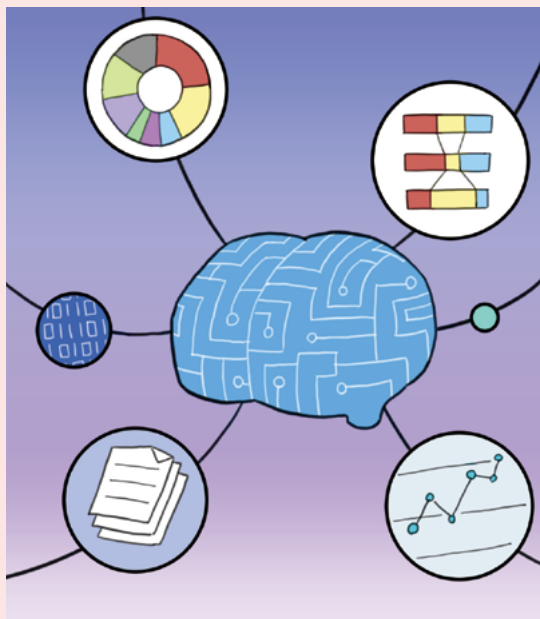
また、自分の考えと他者の考えの「ズレ」を意識しておく、ルールづくりだけでなく、議論する際にも役立ちます。「絶対にこうだろう」と考えずに、「もしかしたら・・・」と考えてみましょう。

チェックしてみよう

- ☐ 私は、信頼性の高いデータを得られるようなアンケートをつくることができる
- ☐ 私は、問題を深く分析することができる
- ☐ 私は、ルールの中にある「ズレ」について説明することができる
- ☐ 私は、「引用」をする際の条件を説明することができる



予測 × 社会問題



AI（人工知能）が得意な「考える」ことの1つに、たくさんの情報を分析し、そこから予測することが挙げられます。例えば、商品の売り上げの予測や渋滞の予測などです。

調べてみよう

情報を予測して教えてくれるサービスにはどのようなモノがあるだろうか？

話し合ってみよう

必要な情報を予測できるようになると、どのような社会問題を解決できる可能性があるだろうか？